



企業のエンジニアは なぜ論文を書くか？

丸山宏

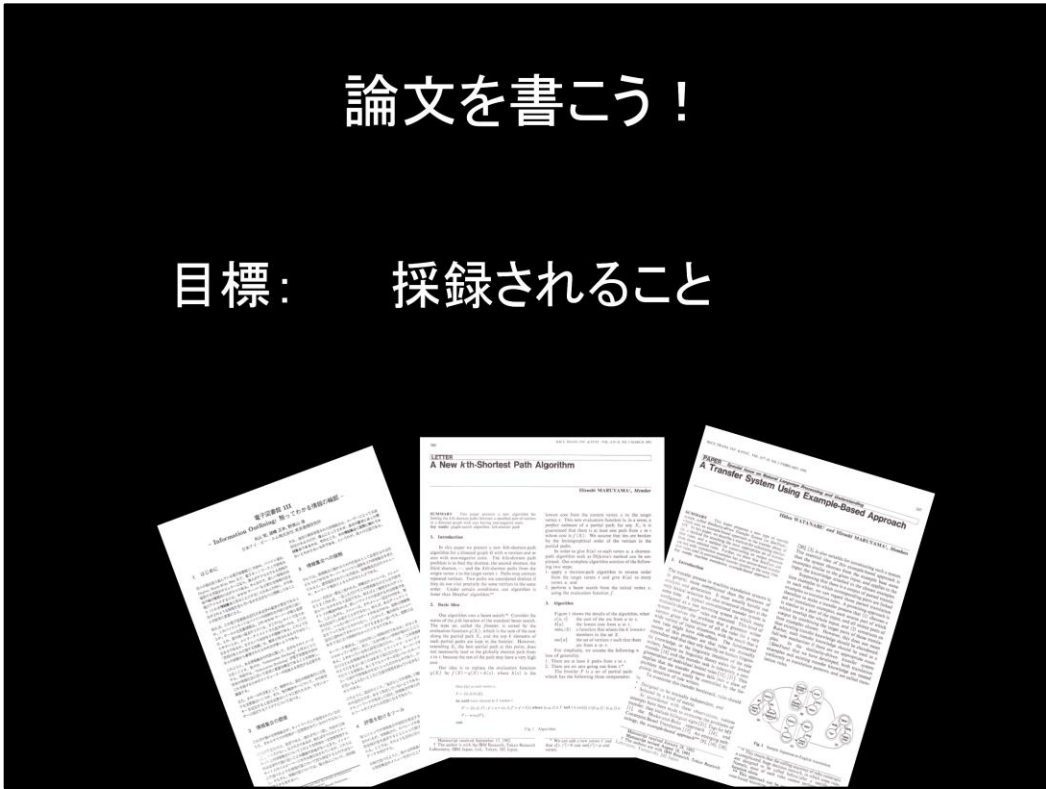
maruyama@acm.org

Twitter: @maruyama

私の本の中でも書きましたが、この短い講演では、企業のエンジニアが何故論文を書くのか、について私の考えるところをお伝えします。
企業の研究者が論文を書く理由は2つあると思います。
(もう一つ、非常によい理由を同じパネルディスカッションで諏訪さんが挙げてくださっています。そちらも参考にしてください)

論文を書こう！

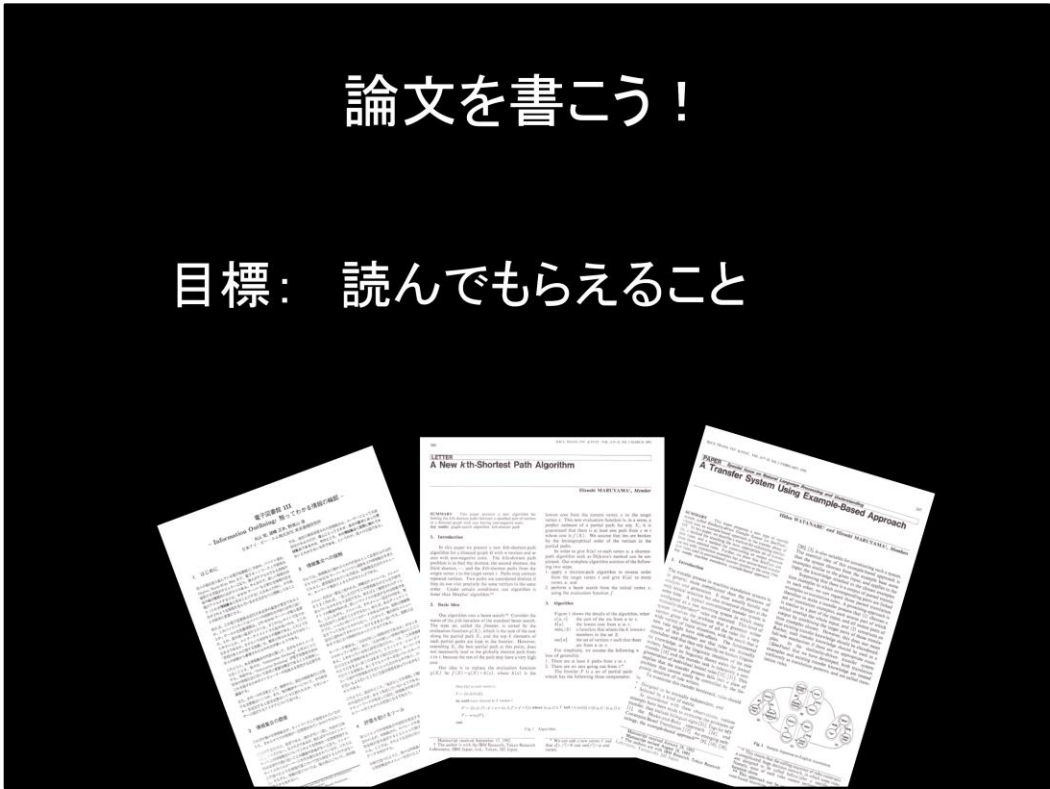
目標： 採録されること



「何故論文を書くか」というと、「学位を取りたいから」という答えが多く聞かれます。その場合は、論文が採択されることが大切だと思えてきます。

論文を書こう！

目標： 読んでもらえること



しかし、論文を書くことの本質は、自分のアイデアや研究成果を他人に伝えることです。

ですから、「人に読んでもらえる論文」を書くことが大切です。もちろん、論文誌に採録されればより多くの人々の目に触れるチャンスは大きくなるでしょう。

でも、それ以外にも「読んでもらう」ための仕組みはたくさんあります。

Webの力



ひと度自分の研究成果を論文の形にしてしまえば、それは非常に多くの人に読んでもらえるチャンスになります。

学会誌への採録、あるいは人々が注目するWebへの掲載などを通して、全世界の何万人もの人に伝えることができます。

個別のディスカッションや、プレゼンテーションなどでは、こうは行きません。コミュニケーションがスケールしないのです。

企業のエンジニアにとって、自分のアイデアや技術が顧客や、ビジネスパートナーや、あるいは社内の意思決定者の目に止まれば、それが製品やサービスとなって世の中に出ていくチャンスが高まるでしょう。

自分の研究成果を多くの人に見てもらい、使ってもらい、これが論文を書く意義の第一です。



もう一つは、もっと個人的な理由になります。

私はIBMに26年間いて、その後キヤノンに移り、今は統数研にいます。

しかし、IBMやキヤノンでやったことのうち、公開されていないものは、今では私自身にもアクセスできないのです。

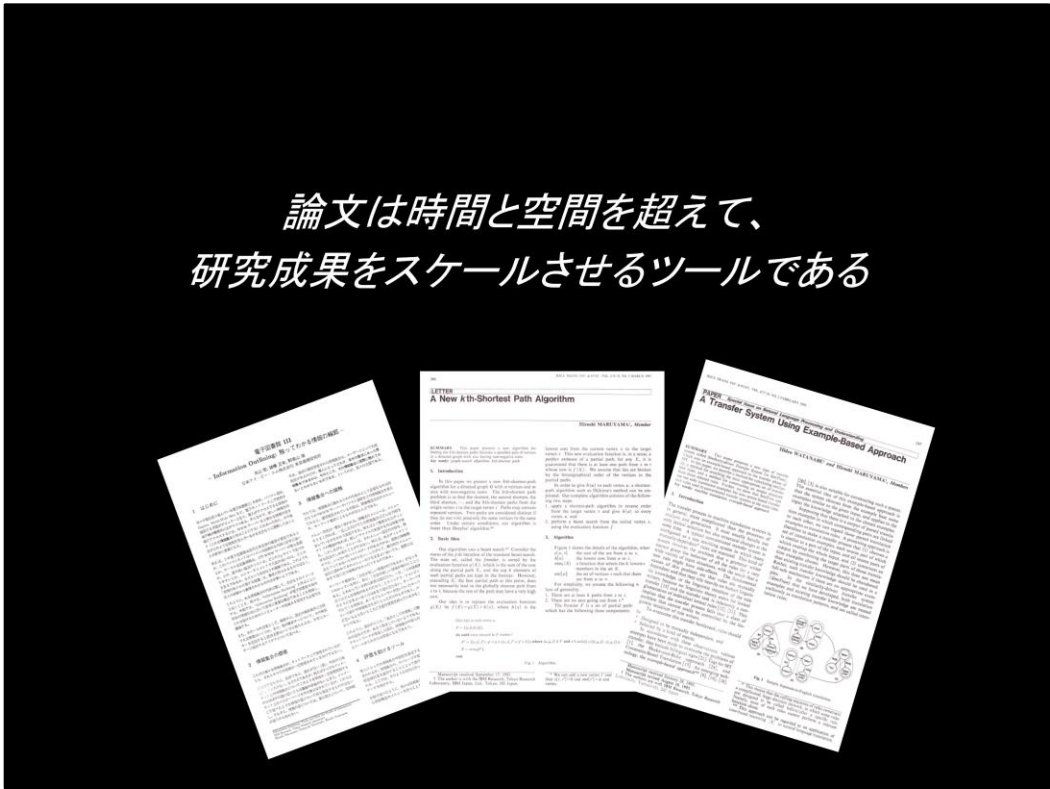
以前作ったアルゴリズム、それを使った実験の結果など、若いうちは覚えていられますが、そのうち詳細なことがわからなくなります。

「この問題は10年前に解いた覚えがある」と思っても、アルゴリズムや実験データにアクセスできなければ、もう一度自分でやる他はありません。



会社の中で自分のやったことを、企業の方針に反しない限り、できるだけ出版・公開しておくのが、
企業のエンジニアの長期的なキャリアを考えた時に大切なことだと思うのです。
論文はそのための大事なツールです。
そして、論文の読者は他人とは限らない。未来の自分も大切な読者なのです。

論文は時間と空間を超えて、
研究成果をスケールさせるツールである



ですから論文は「時間と空間を越えて研究成果をスケールさせるツールである」と言えると思います。

Thank you!

Email: maruyama@acm.org

Twitter: [@maruyama](https://twitter.com/maruyama)